

NEWSLETTER

No.27

2012年6月15日

会長 林 宅男 事務局 〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 関西大学外国語学部
山本英一研究室内

psj.secretary_at_gmail.com <http://www.pragmatics.gr.jp>

郵便振替口座 00900-3-130378 口座名:日本語用論学会

ゆうちょ銀行 支店名:099 当座口座番号:130378 口座名:日本語用論学会

三井住友銀行 学園前支店 普通預金 店番号546 口座番号3755278 日本語用論学会 五十嵐海理

□ 会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。日本語用論学会 Newsletter 第27号をお届けします。さる4月7日に第50回運営委員会が開催されました。この号は、そこで討議された内容をもとに編集されています。重要なお知らせとして、**第15回大会のお知らせ、事務局の移転**などがあります。

★ 会長就任のご挨拶

林宅男 (桃山学院大学教授)

更なる発展に向けて

木々の緑に生命の息吹を感じる今日このごろですが、日本語用論学会の会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。日頃は本学会のために暖かいご支援とご理解をいただき深くお礼申し上げます。

最近本学会に入会されました方も多くおられますので、会長就任にあたり、この場をお借りして改めてその簡単な紹介をさせていただきます。ご存じのように、語用論の研究は1960年代の「日常言語哲学者」ジョン・オースティン (John Langshaw Austin) らによる「発話行為」の研究に端を発し、1970年代には特に彼の弟子ポール・グライス (Herbert Paul Grice) らによる「含意」の研究によって一層脚光を浴びるようになりました。以後コミュニケーションにおける意味研究の重要性の認識と理解が増々高まる中、様々な分野と方法でその研究が盛んになり、やがて国際語用論学会 (IPrA) が1986年に設立され、1993年には神戸で第4回国際語用論会議が開催されました。丁度この頃から日本でも語用論の研究を組織化し、研究者相互の交流と研究者の育成を図ろうという機運が高まり、小泉保先生 (当時関西外国語大学教授で初代会長) の呼びかけで、1998年10月に本学会が設立されました。その第1回大会は同年12月5日に関西外国語大

学で180人以上の参加者を迎えて開催され、その後も大会での発表応募者や会員数は着実に増えてきました。創設10年目の2007年には、初めて海外から著名な語用論学者を懇請し、元会長の澤田治美先生の下に第10回記念大会が関西外国語大学で盛大に開催されました。それを機に大会が2日間の開催になるなど、本学会はその後も前会長山梨正明先生の下に様々な形で発展を続け、現在では400~450名の会員を擁するまでになりました。今年は学会設立15周年に当たることから、現在、それを記念する特別企画を検討しているところです (設立の経緯とその後の10年間の歴史の詳しい説明については、『語用論研究11号』(2009年)に掲載の「日本語用論学会10年の歩み」をご覧ください)。

さて、学会創設後15年が経過し、私は、本学会は更なる発展のための一つの節目となる時期を迎えているのではないかという思いを抱いております。そこで、今年の4月に開催されました第一回の運営委員会では、早速幾つかの提案をさせていただきました。その一つは、大会の開催地に関するものです。本学会の組織は、創設の歴史的な経緯から関西の大学に勤務する研究者を中心に運営されてきており、過去14回の大会も、2回を除いては、京阪神地域の大学で開催されてきました。日本では、政治・経済を含む多くが首都圏に一極集中しており、その状況を考えますと関西での大会の開催にはそれなりの意義があり、評価するべき点もあるかと思えます。しかし、本学会設立の趣旨に照らし、研究者間の相互交流や語用論研究の一層の促進を図るためには、やはり、広範囲にわたる地域での開催が重要ではないかと考えます。このような思いから、さし当たって来年度の大会は、東京で開催することを検討しております。

二つ目は、組織に関する提案です。本学会の

運営委員会は当初 13 人でスタートし、最近では 30 名近くのメンバーに増えましたが、その中で発足時から現在まで引き続き委員を務めていただいている方の数は約半分になりました。これは、本学会の運営組織が、世代交代と再編成の時期を迎えており、今後は、代わって、今まで以上に若手・中堅の委員の方に運営の中心になっていただく必要があることを示すものであると考えております。先の運営委員会では、この点を鑑み、運営委員資格として年齢制限（70 歳）を設けること、運営委員を兼ねた「理事」の設置すること、また今後は（大会会場の全国的展開のためにも）運営委員を出来るだけ「全国区」から擁立することを提案しました。

三つ目の提案は、学会の業務の遂行に関わるものであります。上で述べましたように、本学会の会員数は設立時以来増え続け、現在は中規模の学会に成長しましたが、それに比例するように学会の業務は大変煩雑で多くの時間と労力を要するものになってきております。昨年度からは、大会と学会誌への発表応募の受け付け等をウェブ上でのプログラムを利用することにし、その業務の一部は軽減されましたが、まだその多くが運営委員の大きな負担となっております。このことから、他の同規模の学会の動きに合わせ、本学会でも業務の一部（特に会計や名簿の管理等の機械的な業務）を業者に委託することを提案しました。今後はこのことから生じる長期的なスパンにわたる財政的問題を検討していく必要がありますが、現在の会員数規模の下では、一部の委員に著しい負担を強いることなく、また会員の皆様にもご迷惑・ご不便をおかけすることなく学会を円滑に運営するためには止むを得ない選択ではないかと考えます。他にも委員会組織に関わる変更を提案しましたが、紙面の都合もあり、上で述べました提案と合わせて今年度の総会で改めてご説明し、お諮りさせていただきます。

以上、今回は幾つかの重要なお知らせがありましたので少し長いご挨拶になりましたが、今後は、会員の皆様方のご意見・ご要望を頂戴しながら、様々な意味で本学会を一層開かれたものにすると共に、会員相互の交流と語用論研究の一層の発展のためにお役に立てることを願っております。どうか、これからもよろしくお願い申し上げます。



★会長退任のご挨拶

山梨正明（前会長・京都大学教授）

語用論学会と学問的な視野の広がり

日本語用論学会は、1998 年の設立からほぼ 15 年になろうとしています。これまで、2 期に渡り 4 年間、本学会の会長としてお務めさせていただきましたが、会員の皆様のご支援により、何とか責務を果たすことができました。心よりお礼申し上げます。本学会は、会員の皆さんの積極的な参加により、研究と学問的な交流の場を着実に広げています。しかし、学問と社会との交流という視点からみた場合、学会活動における研究の意義は、社会的にはまだ十分に認識されていない現状にあります。また、関連分野の学問との関係からみても、本学会と他の学会との交流も、これまでのところまだ十分にはなされていないのが現実です。この点を考慮し、過去の 2 期に渡る学会活動の一環として、本学会は、言語系学会連合に参加し、関連学会との交流を図ってきています。学会相互の交流は、社会的な観点からも求められます。理・工系の学会と比べた場合、社会に対する言語系の研究の発進力はまだ限られているのが現状です。この点から見て、本学会は（言語と社会・文化、言語と教育、心理、等、その研究対象のスコープの広さからみても）他の言語系の学会以上に、社会への貢献が期待できます。

昨年（2011 年度）の本学会では、特別シンポジウム（「災害とコミュニケーション」）を開催し、予想を遥かに越える学会員の方、関連分野と一般の方々に参加して下さいました。このシンポジウムは、学問と社会との交流という視点から見た学会活動、他の関連学会と交流、学会の社会的貢献のための活動のほんの一步に過ぎません。しかし、このような地道な努力を積み重ねていくことにより、本学会の研究の場が着実に広がり、学問と社会との交流をも視野に入れた学会活動が可能になっていくと確信しています。

会員の皆さんの、本学会へのこれまで以上に積極的な参加と学問的、人間的な交流を期待しています。

★ 第15回記念大会のお知らせ

2012年度の第15回大会は、以下のとおり開催されます。今年度の大会は本学会創設15周年となりますので、下の2件の基調講演とシンポジウム含め、特別の企画を検討しております。どうか皆様奮っての発表ご応募・ご参加をお待ちしております。

なお、未確定部分につきましては、確定次第、順次HPで更新していきますので、ご確認ください。

◆日時・場所

2012年12月1日（土）、2日（日）

大阪学院大学(<http://www.osaka-gu.ac.jp/>)

〒564-8511大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号

TEL06-6381-8434（代表）

◆大会講演（6月10日現在の予定です。）

A. 「基調講演」

講演者1：Charles Briggs先生（University of California, Berkeley, Department of Anthropology）

講演題目："The Pragmatics of Discourse about Global Circulation"

講演者2：Michael Rundell先生（Editor-in-Chief, Macmillan Dictionaries; Director, Lexicography Master Class Ltd.; Lecturer at University of Exeter throughout the 1990s and at University of Brighton 2002-2003; Managing Editor at Longman Dictionaries 1984-94）

講演題目："Corpora, dictionaries and pragmatics: challenges and opportunities in the age of e-lexicography"

B. 「シンポジウム」

全体テーマ：「コーパス研究と語用論：テキスト分析と教育実践への可能性（仮）」
（講師等は現在検討していますので追ってお知らせいたします。）

◆発表募集

今年度は本学会設立後15年を迎えることから、それを記念する特別な内容の企画を検討しています。発表言語は日本語と英語の両方で、発表形態は、今まで通り、口頭発表、ポスター発表、ワークショップの3種類です。尚、ワークショップにつきましては、一つのテーマについて様々なアプローチから深く検討し研究者の交流が図れる良い機会でもあり、今後も一層促進していきたいと思っておりますので、皆様是非奮って応募いただきますようお願いいたします。以下に応募要領を示します。

◆応募要領

昨年度から、発表の種類にかかわらず、申し込み原稿はすべて同じとなっております。

申し込み原稿は、用紙サイズをA4とし、日本語の場合は2,500字以内、英語の場合は500 words以内で作成してください。参考文献は文字数の

制限に含めません。

様式は自由としますが、所属と氏名は記入しないでください。ファイル形式は、Microsoft Word形式（doc、docx）か、PDF形式（pdf）しか受け付けておりませんので、あらかじめご了承ください。ワークショップの申し込みについては、代表者が全員の発表要旨を一つのファイルに取りまとめてください。詳しくは、本学会ホームページの「年次大会：研究発表募集要項」(<http://www.pragmatics.gr.jp/cfp.html>)を必ずご覧の上応募してください。

◆発表形態

口頭発表：発表25分＋質疑応答10分

ポスター発表：1時間40分（掲示時間）

ワークショップ：1時間40分、特定のトピックについて3名以上の団体（司会者を含む）で応募（ワークショップは団体発表のみに変更になりました）。

◆発表言語

日本語もしくは英語

◆応募締切

2012年8月20日（月）必着

◆申し込み資格

発表の申し込みは会員に限ります。第一発表者が会員でない場合、必ず申し込みと同時に入会の手続きをしてください。入会方法は、こちらのページを参照してください。

◆申し込み制限

単独発表・共同発表にかかわらず、一人の会員が第一発表者として申し込みできるのは、一大会につき1件のみです。また、第一発表者としての申し込みがある場合、共同発表は自身が第一発表者であるものを除いて、1件のみです。第一発表者としての申し込みがない場合、共同研究の第二発表者としては2件までに限られます。

◆選考について

選考および研究発表の割り振りは運営委員会が行い、結果は10月10日以降のなるべく早い時期に投稿者に通知します。

◆問い合わせ先

E-mail：presentation -at- pragmatics.gr.jp

（大会運営副委員長・小山哲春宛）

投稿に関するお問い合わせは、できるだけ時間に余裕をもってお願いします（8月13日頃ま

で)。締切り直前のお問い合わせには適切に対応出来ない場合がございますのでご了承ください。

◆応募方法

2011年の年次大会より、EasyChairを利用したオンライン申し込みとなっております。下記アドレスからアクセスしてください。必ずアクセスの仕方を上記サイト「年次大会：研究発表募集要項」(<http://www.pragmatics.gr.jp/cfp.html>)からご確認の上、ご応募ください。

EasyChair for PSJ2012:
<http://www.easychair.org/conferences/?conf=psj2012>

★ The 15th Annual Conference of the Pragmatics Society of Japan

http://www.pragmatics.gr.jp/conference_e.html

Data: Dec. 1st and 2nd, 2012

Venue: Osaka Gakuin University

(<http://www.osaka-gu.ac.jp/>)

We are pleased to announce that the Pragmatics Society of Japan will be holding its 15th Annual Conference and is calling for paper presentations.

We are preparing a special program to commemorate the 15th anniversary of the conference, including the two plenary lectures and special symposium listed below.

<PLENARY LECTURES>

1. **Title:** "The Pragmatics of Discourse about Global Circulation"

Charles Briggs (University of California, Berkeley, Department of Anthropology)

2. **Title:** "Corpora, dictionaries and pragmatics: Challenges and opportunities in the age of e-lexicography"

Michael Rundell (Editor-in-Chief, Macmillan Dictionaries; Director, Lexicography Master Class Ltd.; Lecturer at University of Exeter throughout the 1990s and at University of Brighton 2002-2003; Managing Editor at Longman Dictionaries 1984-94).

<SYMPOSIUM>

Theme: "Corpus Linguistics and Pragmatics"
(details will be announced later)

◆ Call for Presentations

1. About presentations

Presentation Type: Lecture presentation: Lecture 25 min. + QA 10 min.

Poster presentation: 1 h 40 m.

Workshop: 1 h 40 m. (Organization only).

2. Language: Japanese or English

◆ Guidelines for abstract submission:

1. Deadline for submitting abstracts

August 20th, 2012

2. Online submission page: EasyChair for PSJ2012:
<http://www.easychair.org/conferences/?conf=psj2012>

3. Submission of Abstracts: Abstracts are invited for paper presentations on any aspect of pragmatic analysis from a variety of fields, including historical pragmatics, cognitive pragmatics, the interface between pragmatics and other disciplines, interlanguage pragmatics, social pragmatics, comparative or contrastive pragmatics studies.

Abstracts must be in English and must be submitted electronically on our online submission page, as attachment files in MS Word format (*.doc, or *.docx) and, if possible, in PDF format (*.pdf).

Abstracts should be approximately 500 words in length, not including references, figures, tables, and graphs. Abstracts are accepted in the following categories:

- Lecture presentation
- Poster presentation
- Workshop

4. Notification of the selection:

After October 10th

5. Contact person:

E-mail: presentation -at- pragmatics.gr.jp
(Tetsuharu Koyama)

◆ Online submission page

The page "EasyChair for PSJ2012" can be accessed at:
<http://www.easychair.org/conferences/?conf=psj2012>

• How to create EasyChair account

To use EasyChair, you must first create an account.

1. Access "EasyChair for PSJ2012", then click "sign up for an account".
2. Step 1: Captcha.
3. Step 2: Fill out the following fields: First name, Last name, Email. Then, click "Continue".
4. "Account Application Received" will appear.
5. You will receive an email containing a URL.
6. When you receive the email, click the URL. Please input an account name and password, then click "Create my account".
6. Your account will be created.

• How to submit at EasyChair

1. Access EasyChair for PSJ2012 and sign in to access your account.
2. Click "New Submission".
3. Fill out the following fields.

Author

Title

Abstract

Type of presentation (Lecture presentation,
Poster presentation, or Workshop)

Presentation language (Japanese or English)

Topic area (Choose one or two of the following):

- deixis and reference
- pragmatic inference
- speech acts
- politeness and socio-linguistic approaches
- cognitive linguistic approaches
- relevance theory
- pragmatics and grammar
- pragmatics and language education
- discourse analytic approaches
- conversation analysis, ethnomethodology
- historical pragmatics
- other

4. Upload Paper: Papers can only be submitted as
Word or pdf files.

5. Click "Submit".

★ 第14回大会報告

第14回大会は2011年12月3日～4日に京都外国語大学で行われました。参加者(発表者を含む)は192名でした。

★ 第8回談話会報告

2012年4月7日、京都工芸繊維大学にて、西山佑司先生(明海大学)が「属性表現と語用論的解釈: 語用論はどこまで意味論から自由であるか」と題してお話してくださいました。40名余りの参加者があり、活発な議論が交わされました。

★ 第14回大会で発表された方へのお知らせ

別途ご連絡致しました通り、『大会発表論文集』(Proceedings)第7号に掲載する論文原稿の締め切りは2012年8月20日です。提出方法、送付先等については、本学会ホームページ「大会発表論文集」(<http://www.pragmatics.gr.jp/proceedings.html>)でご確認ください。

★ Announcement to Presenters at the 14th Annual Conference

(Additional information on the deadline, method & address of submission)

Request of submitting the manuscript for the proceedings of the 14th Annual Conference of the Pragmatics Society of Japan(PSJ) (Vol. 7)

[For participants who presented papers in English]
(due August 20th 2012)

See our website in detail.

(http://www.pragmatics.gr.jp/proceedins_e.html)

《事務局より》

★ 事務局の移転について

2012年4月から、事務局が京都工芸繊維大学から関西大学に変わりました。

新事務局連絡先:

〒564-868 大阪府吹田市山手町 3-3-35
関西大学外国語学部
山本英一研究室内

★ 役割分担について

2012年度からの語用論学会運営委員会等の役割分担は下記の通りです(任期2年)。よろしくお願ひします。

<顧問> 児玉徳美

<理事> 久保進、西光義弘、西山佑司、
澤田治美(元会長)
山梨正明(前会長)

<運営委員>

執行部

会長: 林宅男 副会長: 東森勲

事務局長: 山本英一

事務局幹事: 五十嵐海理(会計担当)
加藤重広

編集部

編集委員長: 山口治彦

副委員長: Lawrence Schourup

編集委員: 井上逸兵・鍋島弘治朗・

久保進・田中廣明・西山佑司・

名嶋義直・平塚徹・東森勲・

山梨正明

大会運営部

大会運営委員長: 久保進

大会運営副委員長

(企画): 加藤重広

(発表): 小山哲春

(実行): 野澤元

(プロシーディング): 鈴木光代

大会運営委員(企画): 井上逸兵・名嶋義直・西光義弘・澤田治美・林礼子

大会委員(発表): 金丸敏幸・高木佐知子・長友俊一郎

大会実行委員(実行): 五十嵐海理・岡本雅史・野澤元

プロシーディング委員: 森山卓郎

国際・事業部

国際・事業委員長: 平塚徹

国際・事業副委員長: 余維

国際・事業委員: 長友俊一郎・鍋島弘治朗・野澤元・森山卓郎・Lawrence Schourup

広報部

広報委員長：田中廣明

広報副委員長

(Home Page)：金丸敏幸

(Newsletter)：森山由紀子

広報委員

(Home Page)：岡本雅史

(Newsletter)：名嶋義直

★平成 23 年度(2011 年度)大会会計報告

収入	
年会費	244,000
大会参加費	422,000
懇親会費 (64 名×4,000 円)	244,000
大会論集	4,000
収入計①	914,500
支出	
印刷費	440,097
郵送費	5,248
人件費	200,000
会議費	89,761
文具費	10,964
講師経費(謝金・旅費等)	476,795
懇親会	274,016
支出計 ②	1,506,881
①－②	▼ 592,881

★平成 23 年度決算報告(案)

収入	
前年度繰越残高	4,625,296
年会費(大会分含む)	2,361,000
(487 口)	
一般	403 口(@5,000) 2,015,000
学生	79 口(@4,000) 316,000
賛助	5 口(@6,000) 30,000
大会参加費	42,200
現会員	154 口(@2,000) 308,000
非会員	38 口(@3,000) 114,000
懇親会費(61 口(@4,000))	244,000
大会論文集	20,500
その他(『語用論研究』印税等)	64,531
合計	7,737,327

支出

印刷費(大会プログラム・プロシーディングス・学会誌等)

571,313*

郵送費

16,999

学会ホームページ サーバサービス関連費

16,815

事務局諸費

467,815

人件費(学生アルバイト)

205,000

会議費

250,276

文具費

10,964

その他(手数料など)

1,575

研究会助成金(1 グループ)

20,000

講師渡航費・謝金等(6 名)

476,795

懇親会

284,016

合計

1,853,753

次年度繰越金

5,883,574

*従来入っている開拓社による印刷費(今回は 606,408 円)が今回は次年度送りになっている(請求書が 4 月 2 日付のため)。

★入退会希望、住所などの変更について

これらについては事務局にお知らせください。ホームページの 1 ページ目をご覧ください。

★会費納入のお願い

今年度の会費を、同封の振替用紙、または次に記載する 1-3 いずれかの方法で 11 月末までにお願いします。

◆昨年度までの会費が未納の方には、連絡用紙を同封しております。学会の会計をご理解の上、未納の分も併せてお払い下さい。もし、行き違いがございました場合は、ご容赦下さい。会費の未納が 2 年以上になりますと、会員の資格を失うことになっています。

◆振替用紙が同封されていない方は、すでに今年度の会費が納入済みの方です。ご協力ありがとうございます。

◆年会費は、一般会員：5,000 円、学生会員：4,000 円、団体会員：6,000 円です。

◆振込先は以下の通りです。

1. 同封の振替用紙で支払う場合：

郵便振替口座：00900-3-130378

(ゆうちょ銀行)

口座名：日本語用論学会

このほか、次の 2・3 の振込先もご利用いただけます。

2. 他銀行の ATM から振り込む場合：

ゆうちょ銀行 支店名：099 当座

口座番号：130378 口座名：日本語用論学会

(ただし、振り込み手数料がかかります。ゆうちょ銀行のATMからも振り込みが可能です)

3. ATMからの銀行振り込み:三井住友銀行 学園前支店 普通預金 店番号 546 口座番号 3755278 日本語用論学会 五十嵐海理 (ただし、他銀行からは振り込み手数料がかかります。)

(お願い) 2の場合は、事務局会計には、カタカナのお名前しか通知されません。また3の場合は、通常は通知がありません。お手数ですが、振り込みと同時に、事務局会計(五十嵐海理(龍谷大学): treasurer-at-pragmatics.gr.jp)にお払いの年度とお名前、会員番号、所属、住所(また、所属、住所に変更がある場合も同様)をメールでお知らせいただければ幸いです。

なお、国外からのお振り込みには、

http://www.jp-bank.japanpost.jp/kojin/tukau/kaigai/okin/kj_tk_kg_sk_gaikoku.html (日本語版)

http://www.jp-bank.japanpost.jp/en/djp/en_djp_index.html (英語版)をご使用ください。

《『語用論研究』編集委員会より》

事務局からのお知らせにありました通り、本年度4月から編集委員が大幅に入れ替わりました。学会での議論が活発になるよう、魅力的な学会誌の編集を心がけるつもりです。会員の皆さまの投稿をお待ちしております。よろしくお願ひします。

なお、2012年度第14号より、オンラインでの投稿を受け付けております。くわしくは、学会ホームページをご覧ください。

☆☆☆☆☆☆

《新刊案内》

(紹介文は出版社によるものの抜粋です。)

萩原孝恵.2012.『「だから」の語用論: テキスト構成的機能から対人関係的機能へ(日本語教育学の新潮流)』東京: ココ出版<「接続詞」が、実際の言語使用では、「人間関係」という指標を軸に運用されているという実態を明らかにする。>

橋内武・堀田秀吾(編).2012.『法と言語 - 法言語学へのいざない』東京: くろしお出版<司法の世界を「ことばの側面」からアプローチする「法言語学」。司法界の用語と日常語との比較、法言語学の学問としての成り立

ち・意義・歴史などを取り上げた、裁判員制度時代の「法」と「ことば」の概説書。>

東森勲.2011.『英語ジョークの研究—関連性理論による分析(龍谷叢書)』東京: 開拓社<英語のジョークがおもしろいと思うプロセスを、できるだけ多くの実例を用いて解説。認知語用論(関連性理論)により、表意に基づくジョーク、推意に基づくジョーク、類似性に基づくジョークを分析。>

石川慎一郎.2012.『ベーシックコーパス言語学』東京: ひつじ書房<英語コーパスと日本語コーパスの両者に目配りしつつ、初学者を対象に、豊富な実例を通して、コーパスの諸相やコーパスを生かした言語研究の方法論について平易に解き明かす。>

大津由紀夫(編)・池上嘉彦・窪菌晴・大津由紀雄 西山佑司.2011.『ことばワークショップ—言語を再発見する—』東京: 開拓社<言語研究のおもしろさ・ことばの曖昧性と方言・分の成り立ちを探る・曖昧表現からことばの科学を垣間見る>

影山太郎.2012.『属性叙述の世界』東京: くろしお出版<これまであまり取り上げられてこなかったモノの性質・特性・属性に注目。標準日本語だけでなく諸方言や外国語も視野に入れ、従来の動詞中心の言語学では見えなかった言語の側面に光を当てる。>

金庚芬.2012.『日本語と韓国語の「ほめ」に関する対照研究』東京: ひつじ書房<日本語と韓国語の会話に見られる「ほめ」に注目し、ほめる表現、ほめられる具体的な対象、ほめられた時の反応、さらにほめの談話の流れを総合的に分析。考察会話例も多く収録し、巻末には全会話データのCDを付す。>

河野武.2011.『関連性モダリティの事象—イントネーションと構文』東京: 開拓社<発話の「表情」とは何か、そしてそれは何に由来するか。関連性理論のモジュールに「関連性モダリティ」を設定し、イントネーションと様々な構文に託された「表情」の語用論的基盤を提案する。>

中島平三(監)・松本裕治(編).2011.『シリーズ朝倉「言語の可能性」言語と情報科学』東京: 朝倉書店<近年蓄積が進んでいるコーパスの現状と言語学への関連、文責処理、文書検索、大規模言語データを対象とする幅広い応用について、最新の成果を紹介。>

小田涼.2012.『認知と指示—一定冠詞の意味論』京都: 京都大学学術出版会<言葉が置かれる「場」に着目する認知論的方法を用い、「い

かなる場・解釈領域を背景として名詞句は解釈されるのか」を分析することで、冠詞の用法に明確な説明を与える。>

大場美和子.2012.『接触場面における三者会話の研究』東京：ひつじ書房<接触場面と内的場面の三者自由会話を対象に、話題開始の発話とそれに応答する発話に着目し、発話者、発話の方向、発話の種類、参加者の情報量という観点から分類を行い、二者会話とは異なる三者会話の実態を探る。>

小山亘.2012.『コミュニケーション論のまなざし』東京：三元社<「コミュニケーション論のまなざし」は、個人や社会、社会で言われていること、コミュニケーションを通して為されていることをどのように捉えるのか。コミュニケーションは、単なる情報伝達ではなく、歴史、文化、社会の中で起こる出来事だということをもどのようにして示すのか。>

白井恭弘.2012.『英語教師のための第二言語習得論入門』東京：大修館書店<第二言語習得(SLA)研究の成果から、特に日本で英語を教える際に是非とも知っておきたい知識を選びすぐって紹介。さらに小・中・高・大それぞれ、理論に基づいた効果的な指導法を提案し、明日の英語教育を展望。>

鳥飼玖美子・野田研一・平賀正子・小山亘(編).2011.『異文化コミュニケーション学への招待』東京：みすず書房<「外国語教育から異文化市民の教育へ」「ネイチャーライティングからESD学まで」「地域言語は国際語になりえるか」「ユーモアを訳す」など、通訳・翻訳の問題から環境学まで。異文化コミュニケーション学の最新成果を紹介。>

筒井佐代.2012.『雑談の構造分析』東京：くろしお出版<日本語の雑談を分析、その構造(連鎖組織)や言語形式を明らかにし、雑談の体系化を試みる。>

定延利之(編)・茂木俊伸・金田純平・森篤嗣.2012.『私たちの日本語』東京：朝倉書店<意外なまでに身近に潜む、日本語学の今日的な研究テーマを楽しむ入門テキスト。街中の看板や、量販店のテーマソングなど、どこにでもある事例を引き合いにして、日本語や日本社会の特徴からコーパスなど最新の研究まで解説を試みる。>

泉子・K.メイナード.2012.『ライトノベル表現論：会話・創造・遊びのディスコースの考察』東京：明示書院<現代の日本、特に

ポピュラーカルチャーの世界で、日本語はどのような機能を果たしているのか。今、私たちの生きる言語文化をライトノベルから読み解く。>

Abraham, Werner and Elizabeth Leiss, (eds). 2012. *Modality and Theory of Mind Elements across Language*, Berlin: Mouton De Gruyter

Andersen, Gisle and Karin Aijmer (eds). 2011. *Pragmatics of Society (Handbooks of Pragmatics)*, Berlin: Mouton De Gruyter

Bardzokas, Valandis. 2012. *Causality and Connectives: From Grice to Relevance (Pragmatics & Beyond New Series)*, Amsterdam: John Benjamins

Hoffmann, Christian R. 2012. *Cohesive Profiling: Meaning and interaction in personal weblogs (Pragmatics & Beyond New Serie)*, Amsterdam: John Benjamins

Idström, Anna et al. (eds). 2012. *Endangered Metaphors (Cognitive Linguistic Studies in Cultural Contexts 2)*, Amsterdam: John Benjamins

Laury, Ritva and Ryoko Suzuki (eds). 2011. *Subordination in Conversation: A Cross-Linguistic Perspective (Studies in Language and Social Interaction)*, Amsterdam: John Benjamins

Limberg, Holger and Miriam A. Locher (eds). 2012. *Advice in Discourse (Pragmatics and Beyond. New Series)*, Amsterdam: John Benjamins

Paulston, Bratt et al. (eds). 2012. *The Handbook of Intercultural Discourse and Communication (Blackwell Handbooks in Linguistics)*, NJ: Wiley-Blackwell

Wilson, Deirdre and Dan Sperber. 2012. *Meaning and Relevance*, Cambridge: Cambridge University Press.

☆☆☆☆☆☆

《編集後記》

4月より、会長はじめ、事務局、運営委員会ともに新しい体制となりました。NEWSLETTERの編集担当も、ピカピカならぬ、ピヨピヨの新米です。右も左もわからないまま、皆様のご協力のお蔭でどうにか発行にこぎつけることができました。発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。学会の情報ツールとして、HPとうまく役割分担をしながら、会員の皆様には有益な情報をお届けしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。ご意見・ご要望等がございましたら、事務局へお寄せいただけましたら幸いです。なお、皆様からの新刊情報などもお待ちしております。

(広報副委員長・森山由紀子)